

大阪ニュース ワイド4

10月27日 火曜日 産経新聞 朝刊

企業が「セラピードッグ」支援

殺処分減少の一助にも

訓練した犬を高齢者らの心のケアなどに役立てる「セラピードッグ」を普及させる活動が広がっている。「まいどおおきに食堂」などを展開するフジオフードシステム（大阪市北区）は11月末をめぐり、全国に約720ある店舗に募金箱を設置して、セラピードッグ育成への支援を来店客に呼びかけるなど、企業が取り組みに動き始めた。

国際セラピードッグ協会（東京都中央区）によると、セラピードッグは米国発祥で約60年の歴史がある。捨てられた犬などを訓練し、高齢者福祉施設や病院、児童施設などで高齢者や子供

らの心のケアや体のリハビリに貢献し、医療現場でも活動しているという。フジオフードは加盟店でもオーナーの協力を得て、セラピードッグの普及活動を行う方針で、寄せられた募金は同協会に寄付する。自動車などの買入れを営むマツダレンタカー（広島市南区）も、店舗に募金箱を置くなどしている。ドッグフードなどを販売する日本ヒルズ・コルゲート（東京都江東区）は、同協会で育成するセラピードッグのためにドッグフードを無償提供している。同協会の代表を務めている音楽家、大木トオルさん

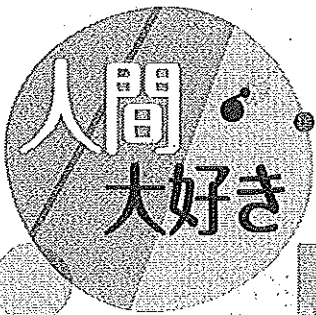
の出身地である東京都中央区の人形町商店街協同組合でも、加盟店に募金箱を置いて来店客らに協力を呼びかけている。

環境省によると、自治体の収容施設での引き取り数が減ったことや、元の飼い主への返還や飼育希望者への譲渡が進んだことで、犬や猫の殺処分数は年々減少傾向にある。それでも、平成19年度は約30万匹が殺処分されたという。

フジオフードの藤尾正弘社長は「私も自宅に犬を4匹飼っている。セラピードッグの普及活動を通じて、犬や猫の殺処分をなくしていきたい」と話している。



セラピードッグによる心のケアを受ける高齢者（国際セラピードッグ協会提供）

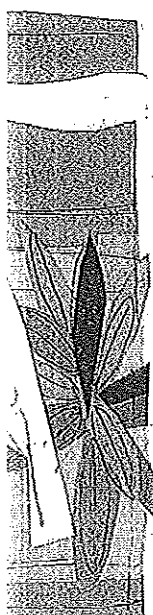


大きなマンションが立ち並ぶ堺市南区の泉北ニュータウン。その一角にある「マーガレットハウス」で月に数回、がん患者や高齢者が集ま

める会 ウイル 宣子さん

患者や家族、ボランティアなど約300人が会員として参加している。発足当時は、ホスピス病棟がなかった堺市で終末期医療を普及させようと、和泉市にある在宅医療専門クリニック院長の梅田信一郎さんを顧問に、患者の痛みを和らげる緩和ケ

アや精神的なサポート、講演会や勉強会を開催。最近、高齢者福祉ボランティアや、終生の電話相談など多岐を実施。過剰な延命



来月、島根・吉賀の「ふくし留学」説明会

島根県吉賀町が、授業料免除で同町内の専門学校で介護福祉士の資格を取る「ふくし留学」の志願者を募集しており、その説明会を11月15

授業料免除で町内の六日市医療技術専門学校に通い、介護福祉士の資格が取れる制度。今年度は39人が利用した。

説明会では同校の専務理事、高橋英興さんと本校生らが制度の仕組みや現地での生活の様子

